



毎年4月15日から5月14日までは、多くの人たちに緑について理解と関心を高めてもらうことを目的に設けられた「みどりの月間」です。

森と花の祭典「みどりの感謝祭」は、みどりの月間に全国各地で緑に親しむ各種緑化行事の締めくくりとして開催されています。

今年は5月14日～15日の2日間にわたって、式典などが東京都内で開催され、森林の恵みを実感できるイベントとなりました。



第26回 森と花の祭典 「みどりの感謝祭」 感じよう みどりの恵みと 木のぬくもり



今年26回目を迎えた「みどりの感謝祭」の式典は、眞子内親王殿下の御臨席を賜り、都内の会場で開催されました。東京消防庁音楽隊の演奏と日野市七生緑小学校合唱団の合唱のプロローグにはじまり、開会宣言、主催者代表挨拶に続いて、祭典の名譽総裁・眞子内親王殿下から「みどり」の大切さと活動の輪の広がりを祈念するお言葉が賜りました。続いて「みどりの文化賞」顕彰や、平成29年全国植樹祭開催地・富山県の魚津花とみどりの少年団、平成28年全国育樹祭開催地・京都府の京都府弓削緑の少年団、花いっぱい運動の代表に対する苗木

と花の特別贈呈、岩手県の岩手町子抱山緑の少年団に対する東日本大震災復興緑化用苗木の贈呈、山火事予防ポスター用原画入賞作品の表彰が行われました。式典終盤では、魚津花とみどりの少年団の代表が「地域で昔から大切にされてきた森とのかかわりを受け継ぎ、木を植え、育て、自然の恵みをいただくという活動に取り組んでいきます」と誓いの言葉を述べました。式典終了後には、参加者が記念撮影をするなど、会場は穏やかな空気に包まれていました。

「みどりの文化賞」は、緑や森林に関して顕著な功績のあった個人または団体を対象として顕彰する制度です。平成2年から緑豊かな国土と新しい森林文化の創造に資することを目的に、公益社団法人国土緑化推進機構によって実施されています。第26回みどりの文化賞は森の大切さの普及啓発を精力的に展開されたC・W・ニコル氏と地域資源とその機能を活かしたまちづくりに取り組んでいる岩手県 葛巻町に贈られました。

「森の再生」と「心の再生」～豊かな森が持つ可能性を信じて～

受賞者 C.W.ニコル氏(75歳)

高度成長と共に自然が失われて行くのを憂い、日本で里山を蘇らせることを決意。昭和61年、長野県黒姫山麓の里山で手入れを開始し、その森を「アファンの森」と名付け、多くの生物が生息する森に回復させました。また、森が人間の心体へ与える効果を提唱し、心に傷を負った子どもたちを森に招いたり、森と共生することを学ぶ「森の学校」創設への貢献など、森の大切さの普及啓発を精力的に展開しています。



地域資源とその機能を最大限に活かした地方創生

受賞者 岩手県葛巻町

葛巻町のキャッチフレーズは、「ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」。町の面積の86%を占める森林を生かした木質ペレットの生産、木質モデル施設へのペレットボイラー導入、木質バイオマスのガス化発電実証プラントの建設などによる木材資源のエネルギー利用、さらに樹皮を酪農において敷料として利用するなど、地域資源を有効に利用し、自然循環型社会の構築に取り組んでいます。

葛巻町に住む誰もが「夢」と「誇り」を持ちながら、安心して住み続けることができる「全国の山村のモデルとなるまちづくり」を目指しています。



5月14日(土)・5月15日(日)みどりの感謝祭

みどりとふれあうフェスティバル

みどりとふれあうフェスティバルは「みどりの恵みと木のぬくもりを『見て』・『触れて』・『食べて』感じる憩いの広場」をテーマに、2日間にわたって日比谷公園で開催されました。

イベントには、森にふれ、森を育み、木をつかう企業、団体、NPO等が出展。木のクラフトやツリークライミング体験、鹿肉などのジビエ料理など子どもから大人まで楽しめる内容に、家族連れをはじめ多くの人で賑わいました。



ボルダリング体験



森と木の子育てひろば



スタンプづくり



積み木



MY箸づくり



ツリークライミング体験